

第2回ぶっとびファンド 第1次審査コメント

1. 総評

このような社会状況のなか、予定を大幅に上回る応募が集まり、本当にうれしく思います。3分動画で伝えていただいた応募者の皆様の多様な表情、表現から様々な想いが伝わってきました。そのひとつひとつに頷き、共感すると同時に、これを「評価」するにはどうしたらいいのか、本当に悩みました。結果として、選考基準は「アートであること」「人をしあわせにすること」「まちをしあわせにすること」が三位一体となって立ち現れている現場を夢想しつつ、最後は「審査員各自がどう共感できるか」で選ばせていただきました。

ぶっとびファンドは2回目になりますが、初回よりも「アートで人とまちを元気にする」というファンドの目的を汲み上げた提案が増えたように思います。

また、コロナ禍という状況の中で、アートに何ができるのかを真摯に考えていただいた点もうれしく、そして頼もしく感じました。

2. 第2次審査に進めなかった皆様へのコメント

応募件数が予想を上回り、いくつものご提案を落とさざるを得なかったのは本当につらいことでした。

残念ながら採択に至らなかった申請案件については、審査員4人の中で種々の議論が行われました。結果として、ご活動の趣旨や素晴らしさは十分伝わりつつも、その先に「人」や「まち」の姿が見えづらいものは、泣く泣く候補から外させていただきました。

ご自身の「アート」に対する思いや信念と、「人とまちを元気にする」というビジョンとのつながりについて説得力を持って伝えていただいているか。一風変わった「ぶっとびファンド」だからこそ可能なチャレンジ精神が感じられるか。申請者と推薦者との関係が「まち」に対して波及・伝搬していく可能性を期待できるか。このような点が審査員の議論のポイントになりました。

芸術活動を展開する場自体が失われてしまった今、芸術の場そのものが大切なのですが、同時に「人」や「まち」のことをもっともっと考えてみたいのです。そのためには何が必要なのか、私たちも考え続けてまいりますし、ぜひ一緒に考えていただければと思います。

とはいえ、第2次審査に進まれた皆様と選に漏れた方々の境界線はおぼろで、僅差であったことも事実です。幸いこのファンドには、まだ応募のチャンスがあります。またお目にかかれることを楽しみにしております。

3. 第2次審査に期待すること

第2次審査に進まれた皆様、第1次審査通過、おめでとうございます。

皆様に共通していたのは、この助成の「アートで人とまちをしあわせに」というねらいのうちの、「人」「まち」「しあわせ」の要素が濃淡こそあれ可視化されていた点です。第2次

審査では、アートに興味や関心の薄い人にもアートを（あるいはアートの力を）届けるためには何が必要かをお聞きしたいと思います。また、「人」「まち」「しあわせ」の観点からさらに具体的な、期待される効果をお聞かせいただければ幸いです。

皆様をお願いしたいのは、今回の審査の場を、「助成金を獲得」ことを目的にしないでほしいということです。他の人の企画に耳を傾け、自分だったらどうしようかなと考え、それをきっかけにコミュニケーションする。そういう場が生まれることこそが、この助成金の根っこにある「アートで人とまちをしあわせに」というテーマに近づく第一歩だと思うのです。ぜひ他の申請者と未永くお互いに切磋琢磨しあう関係を作ってください。

10月11日（日）の第2次審査会でお目にかかれることを楽しみにしています。